

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	70	学校名	静岡県立浜松北高等学校	校長名	長井 利樹
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
(1)	<p>生徒が高い「志」を抱き、それに基づく進路目標の実現に向けて切磋琢磨し合う中、大きく成長する。</p> <p>《生徒の成長 日本一の学校！》</p>	<p>①②③④生徒一人ひとりについて、知る・理解するための面談を年3回以上実施。 学校生活に関するアンケート（以下「アンケート」）で、「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と答える生徒が90%以上。 ロードマップについて、必要な変更が加わり、より適切なものになる。</p> <p>②令和5年度に向け、実力テスト・模擬試験実施の時期や回数、種類等について、改善を図る。</p> <p>③令和3年度末大学入試の結果や指導等に関する分析や検証の結果、次期大学入試に向けて必要となる対応等について、進路指導部等から教職員、生徒、保護者へ、時宜に合った情報提供がされる。</p> <p>④課外補講が適時、適切・的確に設定される。</p>	<p>個別面談を3回以上実施した。</p> <p>アンケートで、「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と答えた生徒がともに91%であった。</p> <p>ロードマップに基づき3年間を見通した進路指導を行うことができた。 愛知県の進学校の視察を通じて、外部模試・校内実力テストについて、見直し改善を図ることができた。</p> <p>進路に関する情報や助言を毎月の進路だよりに掲載し、情報提供をすることができた。</p> <p>東大ガイダンス、京大ガイダンス、医学科ガイダンス等、オリジナルな情報の提供に努めた。</p> <p>早朝課外、夏期・秋期・冬期の各課外等、計画的に実施することができた。</p>	A	<p>個別面談については、引き続き年3回以上の実施を目指す。</p> <p>「アンケート」の左記各項目について、引き続き90%以上の回答を得ることを目指して、教育活動を押し進める。</p> <p>必要な変更等を加え、より相応しいロードマップにする。 他都道府県の進学指導（実力テスト、外部模試、補習）の調査・研究を行い、改善を図る。</p> <p>情報の提供を適切に行うことで、自主的に取り組む意識が高まった。引き続き、積極的な情報提供を行う。 予備校では知ることができない情報の提供で、生徒のモチベーションアップにつながった。本校オリジナルの進路ガイダンスを継続して実施する。 引き続き、計画的に実施する。</p>

<p>(2)</p>	<p>生徒の学力向上に向け、教職員が積極・意欲的に、授業の改善や指導法の研究等に取り組む。</p>	<p>①授業公開週間において、一人2回以上、他教科の授業を参観する。 特に、「スマホ」の所有を義務付けた第一学年について、授業や授業以外の教育活動における多くの場面で、効果的に活用される。</p> <p>①②アンケートで、「興味・関心や意欲を高める授業が行われている」、「学力が向上する授業が行われている」と答える生徒が90%以上。</p> <p>③定期テストについて、測定ツールとしての機能を果たし、「生徒の学力伸長」、「教職員の指導改善」に結びつくものとなる。</p> <p>①②③内容やレベル、進捗等の教職員間の差違について、生徒・保護者からの不満の声がなくなる。</p>	<p>授業見学週間を2回設定し、他教科の授業の様子を見る機会を増やすことができた。</p> <p>第一学年について、1月から一人一台端末の所持が始まり、授業における活用を始めることができた。</p> <p>「アンケート」で、「興味・関心や意欲を高める授業が行われている」と答えた生徒は80%、「学力が向上する授業が行われている」と答えた生徒は86%であった。</p> <p>同一教科・科目の「共通問題」による実施については、多くの教科で実施できている。</p> <p>予備校の指導法講座やDVD講座を活用し、指導方法の改善研究を行った。</p>	<p>B</p> <p>一人一台端末について、授業における効果的な活用や、授業以外の教育活動における活用についても、さらに研究を重ねる必要がある。</p> <p>授業の改善や指導法の研究等に、さらに取り組む必要がある。</p> <p>定期テストが「生徒の学力伸長」、「教職員の指導改善」に結びつくものになるよう、さらに研修を重ねたい。</p> <p>個人が抱えている他の業務や予算の関係で、すべての教職員が参加できるわけではないのが課題である。</p>
<p>(3)</p>	<p>建学の精神「自主独立」を体得し、豊かな人間性、幅広い教養、国際感覚を身に付けて、元気でエネルギーに満ちた逞しい心と体を育むべく、何事にも積極的・意欲的に取り組む生徒を育成する。</p>	<p>①アンケートで、「学校行事に意欲的に取り組んでいる」「学校行事はこれから求められる力を育てるものとなっている」と答える生徒、保護者が共に90%以上。</p> <p>②「生徒個々の能力や個性を大切にしている」と答える生徒、保護者が共に90%以上。</p>	<p>生徒の「意欲的に取り組んでいる」だけが89%と目標の90%にわずかに届かなかったが、生徒の「これから求められる力」は93%、保護者のそれぞれは93%、96%であり、目標はほぼ達成できた。</p> <p>生徒は90%、保護者は94%が肯定的に回答している。</p>	<p>A</p> <p>コロナ禍で各学校行事の運用に変化が求められる中、準備、プログラム作成、急なスケジュール変更への対応等、運営力、リーダー性、協調性等を育むことができた。</p> <p>生徒個々の能力や個性を大切に、さらに向上させる指導に、引き続き取り組んでいく。</p>

(3)	<p>建学の精神「自主独立」を体得し、豊かな人間性、幅広い教養、国際感覚を身に付けて、元気でエネルギーに満ちた逞しい心と体を育むべく、何事にも積極的・意欲的に取り組む生徒を育成する。</p>	<p>①②令和3・4年度の校外学修等の実施について検証がされ、令和5年度以降の校外学修等のあり方について、方向性(新たな形)が見出される。 国際科について、アンケートで、「入学してよかった」、「入学させてよかった」と答える生徒、保護者が共に90%以上。 ①②③GTEC45点アップ。</p>	<p>令和4年度、NZ研修を2年ぶりに実施できる方向で進めている。 学校全体のアンケート結果で、生徒が95%、保護者が97%、肯定的に回答している。 GTECは、2月末実施。</p>	<p>A</p> <p>受入れ先の事情も変化してきており今年度、直前になって受け入れ困難だという家庭が現れた。実施の仕方を早急に検討する必要がある。 国際科のみならず、引き続き取り組んでいく。 GTECの実施結果を分析し、次年度以降につなげる。</p>
		<p>①部活動加入率が95%以上。 ②令和2～4年度入学生生の部活動加入状況等について分析がされ、令和5年度以降の部活動の運営やあり方について検討がされる。</p>	<p>部活動加入率は100%である。 令和3年度末に行った部活動の統合による効果を確認している。</p>	<p>B</p> <p>部活動の統合の効果を確認し、今後の対応を検討する。</p>
(4)	<p>自立した人間としての規範意識、人権尊重の精神を養い、高い自己管理能力と社会性・公共性を備えた生徒を育成する。</p>	<p>①②機会を捉えて指導するとともに、「討論会」等において、挨拶やマナー、人権等について、生徒自らが考え、意識を高める。</p>	<p>LHR、学年集会、全校集会等、様々な機会をとらえて指導した。 各クラスで「討論会」を行い、主体性や思考力を養うことができた。</p>	<p>A</p> <p>様々な機会をとらえ指導した。今後も心に響く指導を心掛けていく。</p>
		<p>○街頭(登校)指導の継続実施及び自転車の整備点検の徹底。前年比、年間事故件数の2割減、不注意による遅刻数の半減。</p>	<p>交通委員が主体となって行った定期的な街頭指導、交通指導カードを受けた後の指導も丁寧にできたが、事故件数の2割減は達成できなかった。</p>	<p>B</p> <p>交通指導に関しては今後も常にHRを通じて注意喚起が必要である。</p>
		<p>①②体罰及びいじめについて、いずれも“ゼロ”。アンケートで、「頼れる教員がいる」と答える生徒・保護者が95%以上。</p>	<p>体罰及びいじめは、ともに0件。 「頼れる教員がいる」に対し、生徒は86%、保護者は87%であった。昨年度よりは増加しているものの目標には届かなかった。</p>	<p>B</p> <p>生徒理解にさらに努め、生徒との信頼関係を深める中、安心・安全な学校づくりを推進する。</p>

(5)	生徒の心身の健全な発達を促し、学ぶ意欲の醸成に繋がる保健・情報（図書）指導や設備の充実など、安心して快適に過ごせる教育環境をつくる。	<p>①学校保健委員会における生徒研究発表が、質・内容ともにレベルアップする(学校の生活環境の整備・改善に関し、生徒目線での意見・提案を堂々とする)。</p> <p>②保健委員会・整備委員会の活動を活発化し、生徒自らの発信により、コロナ感染防止策や校内美化・清掃活動の充実がより図られる。</p> <p>①②アンケートで、「清掃活動を通じて、学びや生活の場を大切にする心を育てている」と答える生徒及び保護者が 85%以上。また、トイレ等の汚れについて、指摘がなくなる。</p>	<p>自分たちの生活や健康課題に目を向けることで、保健委員が自発的に研究テーマの設定を行った。早い時期から計画的に取り組むことで、研究テーマの設定・実態把握・お昼寝プロジェクト等も生徒主体で実施することができた。</p> <p>両委員会とも定期的に活動し、クラスや校内に対しての働きかけができていた。</p> <p>清掃についての質問に対し、生徒 81%、保護者 88%が肯定的な回答であった。生徒の方は目標に届かなかったが、去年(76%)よりは向上している。</p>	A	<p>学校保健委員会においては、昨年度以上の発表ができた。学校医や教員、保護者まで巻き込んだ活発な意見交換ができ、生徒の達成感も高かった。</p> <p>生徒が中心となり活動した結果、HRや行事ブロックを通して学校全体の健康・安全に関する意識が向上した。</p> <p>引き続き生徒主体の活動を行い、生徒の意識の向上を図る。</p>
		<p>①②アンケートで、「健康、安全の確保に関する指導が適切に行われている」と答える生徒が90%以上。</p> <p>②「学校が楽しい」と答える生徒が95%以上。</p>	<p>「指導が適切に行われている」の質問に対し、92%の生徒が肯定的に回答している。</p> <p>「学校が楽しい」の質問に対し、96%の生徒が肯定的に回答している。</p>	A	<p>教育相談では、問題を抱える生徒に対し、的確、組織的に対応できている。</p> <p>健康、安全指導に、引き続き取り組んでいく。</p>
		<p>①図書館が全日制・定時制、両課程の生徒にとって、本を借りる、本を読み・本に親しむ場としてのみならず、学びやコミュニケーションの場としても機能し、より多くの生徒が集まる場となる。</p> <p>②図書館利用者数及び年間貸出数が増加。読書活動に関する「生徒から生徒へ向けた発信」が増加する。</p>	<p>図書委員によるおすすめ本の紹介やブックカバーの発行や写真部とのコラボによる図書館前のディスプレイなどの生徒が主体的に動く活動ができた。合わせて新刊案内の掲示など行うことにより、生徒の読書へ興味を持たせることができた。</p> <p>利用者数や貸し出し冊数は例年並みであった。</p>	B	<p>ブックカバーや新刊案内については紙での配布や掲示を行ってきたが、Google classroomを通じての電子媒体での掲示も検討していきたい。</p> <p>生徒が本を手に取りたくなるような活動を考えていきたい。</p>

<p>(5)</p>	<p>生徒の心身の健全な発達を促し、学ぶ意欲の醸成に繋がる保健・情報（図書）指導や設備の充実など、安心して過ごせる教育環境をつくる。</p>	<p>①コロナが落ち着き、地域防災訓練が実施された場合：参加率の前回比増。 ②防災備品等について、点検・整備が図られる。防災訓練内容について、工夫・改善が図られる。</p> <p>○不備・未実施、事故・トラブル等、ゼロ。</p>	<p>コロナ禍により、地域防災訓練への生徒参加率増加は図れなかったが、参加状況の集計に Google Form を活用することにより業務の負担を軽減することができた。 生徒地区会や防災教育、防災訓練を滞りなく実施できた。</p> <p>外階段撤去・新設、アーチェリー場フェンス補強、非常放送設備更新、新体育館雨漏り補修、教務室・図書室エアコン取替及び新設などの5件の工事を行い、目標に近づけることができた。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>Google Classroom を活用した防災についての情報発信や、個人端末を活用した防災教育について検討していきたい。</p> <p>安心・安全な教育環境確保のため、修繕工事必要箇所の一覧を県教委に送付し予算要求しており、県教委との連携を密にしていきたい。</p>
<p>(6)</p>	<p>教職員の資質向上と危機管理・コンプライアンス意識の高揚、業務の効率化と多忙化の解消を図る。</p>	<p>①必要な研修が、適切な時期に実施される。</p> <p>②職員の超過勤務時間の前年度比減。</p>	<p>BYADに伴うICTに関わる様々な検討・決定・準備を、管理職・情報指導部と協力して進めることができた。 校内研修会については、静岡大学情報学部の小西達裕教授を招き、ICTと学びの場についての講演会を開いた。多くの基礎的理論を学ぶことができ、教員の意識改革につながった。 職員の超過勤務時間は減らすことができなかった。</p>	<p>B</p>	<p>授業でのICT活用も昨年以上に組み込みが進んできている。 今後、ICTを実際に運用する上での実践的な内容を、校内研修会で取り上げたい。 また、実際に使っていく中での様々な対応が求められるので、臨機応変に教員の疑問や要望に応えられる体制を作りたい。 業務の効率化について部長主任会等で検討するとともに、学校職員衛生委員会等で働きやすい環境づくりを推進する。</p>

<p>(7)</p>	<p>「信頼される学校づくり」に向け、本校の魅力を積極的に発信する。</p>	<p>①HPについて、特に行事、部活動の関係ページが改良される。 HPの更新が週1回以上。 ①②アンケートで、「家庭への連絡や情報提供が適切に行われている」と答える保護者が90%以上。 ③中学生の一日体験入学や公開授業の参加中学生等の満足度がアップ。</p>	<p>行事、部活動の関係ページが、およそ2日に1度のペースで更新できている。 「家庭への連絡や情報提供が適切に行われている」と答える保護者は、86%であった。 公開授業について、対象者を金曜日本校保護者、土曜日中学生及びその保護者としたところ、それぞれ参加者が大幅に増加した。</p>	<p>A</p>	<p>今後も教育活動の様子や成果の速やかな発信に努める。 情報提供の仕方を工夫する必要がある。 本校保護者、中学生及びその保護者の、それぞれのニーズに応えることができた。</p>
<p>(8)</p>	<p>「新学習指導要領」に基づく「新カリキュラム」への円滑な移行を図る。</p>	<p>①一人一台端末について、選定がされる。また、その本校教育活動への効果的な活用例について示される。 ②教科「情報」の指導を含め、本校における「情報教育」のあり方について、方向性や指針等が示される。</p>	<p>BYADに伴うICTに関わる様々な検討・決定・準備を、管理職・情報指導部と協力して進めることができた。 プログラミングやデータ分析の分野において、より重点的な授業カリキュラムを組むことができた。授業のDX推進を実施し、Google Classroom等の活用により授業プリント0を達成した。</p>	<p>A</p>	<p>授業でのICT活用も昨年以上に進んできた。ICTを実際に運用する上での実践的な内容を、校内研修会で取り上げたい。 配布プリント0の長所短所を踏まえた影響について今後も検証を重ねる必要がある。 入試への対応を含めた教科情報のあり方を速やかに検討していく必要が生じてきている。</p>